

平成28年
8月21日

曳御柱祭

新発田城址公園 8:00 ~
城下町新発田まつり特別行事

建御柱祭

諏訪神社 13:00 ~

信州 諏訪大社下社

春宮より拝受した

春宮一之御柱が

新発田のまちに

新発田

御柱祭とは

信州、諏訪大社は上社(本宮、前宮)と下社(春宮、秋宮)があります。各神社とも賀と申の年に宮殿を新築し、御柱を建て替えるのが「御柱祭」です。山中から御柱となるキミの木を切り出し、人力のみで各神社までの道中を曳き、最後に神が宿った御柱を社殿の四隅に神域を守るかたちで建てます。起源は平安時代以前と言われており、諏訪地方の市町村2万人が参加する大祭です。



諏訪神社

新発田総鎮守

十九代 宮司 畠山 賢邦



「御柱が戴ける事となつてから三回目(三本目)となります。市民の方々の熱意が通じたのか次回より(春宮一之柱名)毎回戴ける事となりました。六年(敬え七年)に一度の式年御柱祭として斎行してまいりたいと思っております。



信州・諏訪の魂を引き継ぎ 御柱を建てる

それが新発田御柱祭

平成十三年十一月、不審火により全焼した諏訪神社。大勢の方々の御協力を得て、焼失より二年九ヶ月という他では考えられない早さで、平成十六年八月に再建されました。この度は丁度大社の二百回目の御柱祭と重なり、その偶然に役員一同感激し、拝受願しましたところ快く承諾されました。

亶来三回目になりますが、今後も未永く続けてゆきたいと考えております。式年御柱祭として拝受した最初の秋宮二之柱に白無垢を纏わせ、大勢の市民で出迎えました。この行いに諏訪の方々が「新発田の皆さんが御柱を大塚丁寧に扱ひ、大切にしてくれた」と感激され、二回目はもつと美しく素晴らしい秋宮二之柱を拝受することとなったのです。

そして今回で三回目、平成二十八年八月二十一日。春宮一之柱を台車に乗せ、新発田城址公園から新発田の街をお曳きし、最後には境内の拝殿前に建てます。



平成二十八年建御柱祭実行委員長 関川 良平

諏訪大社から御柱を拝受するの3回目となり、とても光栄なことだと思っております。諏訪の皆様のお熱い想いを引き継ぎ、賑やかにパレードを行い、地域に誇れる建御柱祭にして参りたいと考えておりますので、皆様のご参加ご協力を心よりお願い申し上げます。

タイムスケジュール

8:15	出発セレモニー	新発田城址公園
9:00	曳御柱祭 開始	
10:45~11:05	武者溜りセレモニー	武者溜り交差点
11:35~12:10	到着セレモニー ●御柱餅まき他	東公園内
13:00	建御柱祭	諏訪神社境内



「春宮一之柱」 最初(平成十六年)に拝受した時、御柱に白無垢を纏わせて来た事に諏訪の方々も大変感激し、木道りの方々も同行されお祝いして下さいました。春宮の御柱は秋宮とくらべて大変美しい姿の御柱です。台輪ともども大切にしたいものです。



< 曳御柱祭ルート >



当諏訪神社も信州(長野県)の諏訪大社を御本社とし、全国には一万社以上ありますが、新潟県が一番多いのです。何故なら新潟周辺を開拓してきたのは信州の人達が多かったからです。諏訪大社の龍神信仰は水への信仰であり、農業の守護神としての信仰が一番ですが、主神 建御名方命(たけみかのみこと)は大変力が強かったことから尊神(いくさがみ)として崇められてきました。新潟へ移った信州の人達は自分達にとつて大切な神様であると考え、お祀りしたのだと思われれます。

曳御柱参加申込書

<http://osuwasama.jp/>

新発田諏訪神社 検索

